

当面の技術対策（畜産編）

令和5年8月1日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部

本年は平年よりも気温が高く推移しており、飼料用とうもろこしの雄穂抽出期は平年より10日早い7月23日に、絹糸抽出期も平年より11日早い7月24日に迎えました。

一方、降雨が少ない影響を受け、1番草刈り取り後のチモシーの生育が停滞気味であるほ場が散見されます（排水の良いほ場など）。加えて、乾燥傾向に比較的強いマメ科牧草（特にアルファルファ）の生育が旺盛である傾向のため、2番草収穫時、原料草が乾きにくい可能性があります。今後の天候およびほ場の様子を確認し、2番草収穫に備えましょう。

<暑熱時の栄養管理>

暑熱時は、採食量の低下や反芻の低下により、ルーメンアシドーシスが助長されます。牛の様子を普段よりも注意深く観察するほか、牛が餌を食い込みやすいような管理が必要です。

1. 乾物摂取量を低下させないために

- ・餌寄せをこまめに行う（作業終わりや休憩前に、もう一押しを！）。
- ・水槽の清掃頻度を増やすほか、水圧が弱まっていないかの確認を行う（水分不足は、採食量の低下を助長するほか、体温の上昇にもつながる）。
- ・ミネラル分（鈣塩・重曹）の補給を行う。

2. 腐敗したサイレージ・カビに注意

- ・腐敗したサイレージは取り除き、牛への給与を避ける。ロールサイレージの場合、餌槽の食べ残しを放置することが問題となるため、こまめな清掃を行う。
- ・サイレージの腐敗を抑制するには、取り出し作業の工夫も必要
 - ①サイレージと酸素の接触を最小限にするよう、取り出し面を垂直にするよう心がける。
 - ②直射日光がサイレージに差し込むと、サイレージ温度の上昇により、腐敗を助長する。取り出し面にもシートを垂らすなどの工夫を行う（ムレを防止するため、シートを地面まで下げず、隙間を空けることが望ましい）。

<熱中症に注意！>

- ・のどが渇く前のこまめな水分補給・塩分補給を！
- ・こまめな休憩を取ること！
- ・ほ場などで具合が悪くなった際に、すぐに家族と連絡が取れるよう、携帯電話・スマートフォンの常備を！